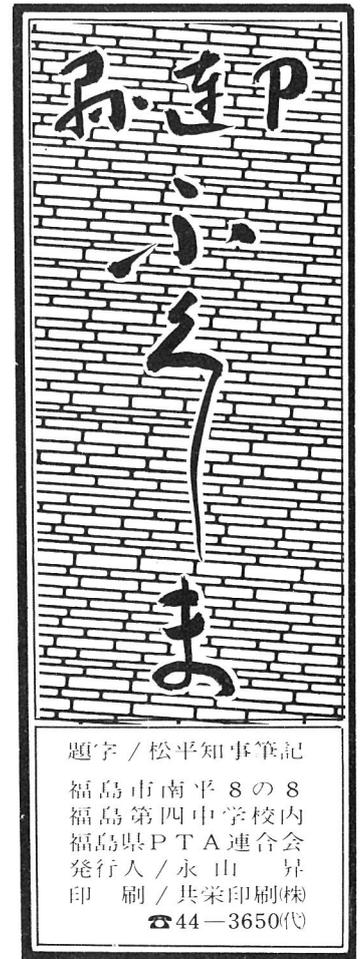


福島県PTA連合会会報  
第7号\_S53.11.01



# 甘えをすてよう30歳 PTAに愛校基金を!!

西白河郡連P会長 柳沼和夫

今から三十五年前、私の住んでいた町の学校に、川の土手に添って見事に成長している杉林があった。眠通りが二十坪にも達するほどの素晴らしい学校林であった。そして、すぐ脇の土手には防空壕がいくつも掘られてあった。また、高等科の生徒が、春になると五反歩はあったろう田んぼに、ズボンの裾をまくり上げて田植えをしていたり、隣の広い畑にじゃが芋やトウモロコシの蒔きつけをしていたのを想い起す。

誕生以来三十年がすぎたわが国の小中核PTAの殆んどは、その会計経理が単年度勝負で、春の総会に報告される決算報告には、その年度のわずかな残金が計上され、新年度の予算書に「前年度繰越金」として計上されるのが通例となっている。そして一般会計の予算の中でまかないつかなくなつた時、抵抗のない範囲で会費の値上げが行われ、予算が編成される。また、会費の増額で間に合わない時、自治体に補助を陳情したり、篤志寄附を募るといふようなことが今まで行われてきた慣行であった。俗に言う、〃江戸っ子は宵越しのゼニは持たぬ〃の気性にも似て、展望のない、今日一日を大切に生きるという運営ではなかつたかと思う。

凡そ百年前、晩年に南州と称した隆盛の遺訓の一つに〃子孫のために美田を残さず〃というのがあるが、個人ならいざ知らず、団体とか公共機関に對しては賛成しかねるのは私一人ではあるまい。東大医学部の土居教授が、偶数の影響さうけた日本人独特の心情〃甘え〃のころを、十二年前に「甘えの構造」の中で見事に喝破しておられ、一読反省させられるのであるが、私達は、個人生活の中では勤めてムダを省き将来に備え畜積を図るが、団体の中ではその觀念が薄らぐのではあるまいか。ひつきょうそれは〃明日はあしたの風が吹く〃という「甘え」であると思われる。

次の時代を担う子供たちを育てる世界の、一隅を支える団体のPTAに、その〃甘え〃がいつまでも許されてはならないと思う。これからの後輩のために、私達が努むべきことは、善良き伝統を伝えることであり、美田を残す事ではあるまいか。それぞれの単Pに五〇〇万とか、一、〇〇〇万とか、二、〇〇〇万の愛校基金があれば年五・五%の定期預金が、毎年二十七万五、〇〇〇円、五十五万円、百十万円の利子を生み、毎年の競技会の選手派遣費や環境緑化費や、器楽部の楽器補充や、PTA図書館充実にどれほど役立つことであらうかと思う。

そしてその愛校基金をまとめ上げるには、地域によりいろいろな方法があると思うが、毎年度の予算から一割天引きして積立てるとか、廃品回収やバザーの売上げ金をプールするとか、農村地域ではイナゴ取りの売上げを畜積するとか、それぞれの単Pの創意が生かされるべきと考えるのである。

三十歳を越えた壮年期のPTAに、愛校基金の創設を敢えて提言する次第である。

**田村郡滝根町PTA 連絡協議会研究大会**

田村郡滝根町PTA連絡協議会（会長・大和田利見氏）の研究大会は、明五十四年二月ごろ、会員五〇人位の参加の予定で開催される。場所、日時、講師等は未定。

**次号発行について**  
原稿繰り越します  
今回編集の都合上、次の市郡連Pより寄せられました原稿は、次号十二月発行に掲載致します。事情御了承下さい。

① 双葉郡富岡第一小学校 特色あるPTA  
② 伊達地方PTA連合会 方部育成会記事の原稿  
③ 大沼西方中PTA 体育学芸優良生徒  
④ 東白川郡連合PTA 地道なPTA活動  
⑤ 田村地区小中学校 PTA協議会原稿  
以上の原稿は、次号に繰り越します。

**田村郡三春町PTA 連絡協議会研究大会**

田村郡三春町PTA連絡協議会（岡本藤久蔵氏）では、十月三十日午前九時三〇分より、要田小学校に於いて、八七人の会員が参加、県中教育事務所社教主事・添田正利先生、県教育庁派遣、三春教委社教主事・佐藤正与先生を助言者として、研究大会を開催した。

# 躍進する大沼郡連P

大沼郡連合PTAの今年度総会は去る五月二十七日(土)、会津高田町うずみ荘で開催、「日本人としての自覚と国際的視野をもった明るい社会の建設をめざす児童、生徒の育成」をはかるため、十四の単位PTA、三、三二〇名の会員が次のスローガンをかけ、事業計画をたて推進することになった。

スローガン

○親も子も教師もみずから学び、豊かな人間性を育てる活動しよう。

○家庭、学校、地域の連帯の中で、郷土を愛する、国際社会に生きる子どもを育てよう。

○地域社会の中で、子どもをおびやかす公害を排除しよう。

○安全の日、家庭の日で、子どもを事故から守ろうろう。

事業計画として

一、毎月一日を家庭安全の日とし、安全点検を実施する。

二、毎月第三日曜日を家庭の日とし、家族対話

をし、明るい家庭を築く運動を進める。

三、父母、教師、児童、生徒の参加による郡連合PTA研究大会を成功させる。

四、ソフト、バレー大会を開き、健康増進会員相互の親睦をはかる。

等を決め予算総額十二万九千八百六十円で、長嶺富市会長を中心に運動を進めることになった。

ポルノ雑誌自動販売機の撤去に成功

会津高田町に二ヶ所のポルノ雑誌自動販売機が設置されてあったのを、去る七月九日、地権者と自動販売機の業者に要望書を提出し、七月十一日完全に撤去された。

児童、生徒も参加の郡連P研究大会

去る八月十七日午前九時三十分より高田一中を会場に「未来に生きる人間性豊かな児童、生徒に育成するために、郡内の会員、児童、生徒が一同に合し、家庭教育や青少年をとりまく社会環境などの問題について研究協

議を重ね、児童、生徒の教育環境の美化を進め、青少年の健全育成に努力する」を目的に五つの分科会に別れ、単P、各小中学校長が、助言者、司会者になり、各校の児童生徒代表も参加し、約四七〇名の参加を得て午前中分科会、午後は分科会報告に記念講演として、「中国の国づくりと日本」福島大学教授、藤村俊郎先生の講演を聞き午後三時四十分成功のうちに閉会した。

ソフト藤川小、バレー新鶴小優勝

郡連P球技大会は八月二十七日(日)高田二中の体育館とグラウンドで、ソフト、十三チーム、バレー十四チームが参加し熱戦を演じましたが、ソフトは藤川小、バレーは新鶴小がそれぞれ優勝し、優勝のトロフィーが授与された。

PTA大学の高田二中

県駅伝競走で有名な高田二中では、PTA大学を開設し、学校教育と家庭教育との連携を強化し、生徒の豊かな人間性の育成をはかっている。学長には東京大学教授佐藤俊

夫先生、目標として、①親として生徒の正しい理解者となり、円満な家庭や住みよい社会をつくる。

②安全で健康な生活習慣を養い、知・情・意・体の調和のとれた心身ともに健康な生徒を育成する。

③社会生活の経験に基き人間相互の関係について正しい理解と協同、自主及び自律の精神を養う。

具体的に教育講演会、親子の三者懇談会、地区懇談会、映画会、研修視察、愛校作業、球技大会等を行ない今年で三年目、地域の教育に対する関心が高まり、コミニテイスクールとして躍動している学校に変わり、高校進学も一〇〇%の好成績をあげ、又、スポーツ面でも優秀な成績をあげている。これは、PTA大学の大きな成果であると高く評価されている。

家庭の日八十%安全の日七十%

家庭の日、安全の日の実施状況は毎月調査しているが、家庭の日八十%安全の日、七十六%の好成績をあげている。

## 補導委員会の活動

川俣PTA

一、現状と問題点

子どもたちの生活環境をむしばんでいるさまざまな問題点がいろいろな機会に取り上げられている。環境問題に対する関心の高まりもあろうが環境の悪化がそれぞれだけ進んでいるともいえるであらう。

PTAの調査によると次の点が現状でもあり問題点ともなっている。

○近くに適当な遊び場がない。

○交通量の増加により危険がふえている。

○共働きが多く子どもが帰宅してもだれもいない。

二、実践内容

①遊びの指導に関して

○長期休業前の子ども会総会に出席し活動計画や生活のしかたを指導。

○よりよい遊びやレクリエーションの計画の実施。

○お盆や年末年始時における街頭巡回補導。

○遊びに関する問題等に

ついでの話合い。

・教育懇談会(各町ごと父母と教師)

・家庭教育学級においての問題別分科会。

②安全指導に関して

○街頭における交通指導

○フィルムライブラリー利用による交通安全教室。

③非行、不良化防止に関して

○問題点についての話し合い。

・町別教育懇談会

・家庭教育学級

・父親学級

④出版物、テレビ視聴の指導。

○広報による問題提起や話し合い内容の周知。

○家庭教育学級において分科会を設けて話し合う。

三、反省と今後の方向

○重点目標の一つとして事故、非行化の防止を取り上げる。

○単Pだけでなく他のPTAや関係団体と協力し、小中一貫した指導も必要。(川俣町子ども会連絡協議会結成)



# 市連P親善ソフト

## ボール大会盛會裡に開幕

### 福島市連P事務局

福島市小中学校PTA連合会の特色ある大きな行事として「市連P親善ソフトボール大会」がある。

趣旨は、各単P間の親善ということが大きな目的で、市連P厚生委員会

が中心となって大会を運営する。運営費は各単P

三、〇〇〇円の参加費でまかなっている。大所帯

なので、大会までには何回も会議をもって運営に

ついて討議を重ねることになるので、厚生委員会

の責任は重く、なかなか大変な仕事である。

**試合は、小学校の部、**

中学校の部に分け、小中学校とも優勝校には大会

より優勝旗、福島市長より優勝楯、準優勝校には

大会よりトロフィー、市議会議長より準優勝楯が

おくられる。前年度までは、中学校の部は福四中

火災の折優勝旗を焼失したままであったが、本年度は各単Pより提出して

新しくできあがった真紅の大優勝旗がおくられることになった。

なお、優勝、準優勝校には、県連Pより表彰状

が昨年度よりおくられることになっている。

**試合の方法は七回戦まで、**トーナメント法による。そのほか、競技上の

規定を設け、トラブルがおこらないようにしている。

また、事故については各単Pの責任とし、ス

ポーツ傷害保険に加入して出場することになっている。

今年度は第十四回を迎え、市連P傘下六七単P

のうち、出場チームは小学校四四単P、中学校一

九単P、計六三単Pが参加、八月二十七日(日)早朝

七時三〇分より、福二小福四小、森合小、附属小

福一中、渡利中、岳陽中の七会場、熱戦が展開

された。

**開会式は、当日、中**

学校の部は福一中会場で七

時三〇分より、小学校の部は渡利中会場で八時より、福島市長佐藤達也殿市議会議長殿、市教育長殿のご臨席をいただき、

第一試合の単P選手、事務局、審判団出席のもと

に、会長あいさつ、優勝旗返還、来賓祝辞、審判

長より演技上の注意があったあと、佐藤市長の始

球式の投球は、みごとに

きまつてキャッチャーの

ミットにおさまり、やん

やの喝采をあびた。

**いよいよ熱戦の幕が切**

つておとされた。会員数の多い単Pはもちろん、

会員数の少ない単Pも、

技術が伯仲し、一点を争う好ゲームが多く、どの

会場でも試合は熱気につつまれ一投一打に歓声があ

がった。

当日は、小学校の部三六試合を消化してベスト

エイトが決まり、中学校の部は一五試合を消化してベストフォオが決定。各

### 石川連Pの素顔

私の正式の名前は「石川地方連合PTA」とい

います。石川郡石川、津

川町玉川、平田村と東白川郡古殿町の五町村内のPTAで組織し単P三八

会員数約六千、生徒数約

八千、県内の一九連Pで

は中間位の規模でしょう

か。

私の目的は管内PTAの相互連絡協議により石

川地方教育の振興を図ること、そのため①加入

PTAへの連絡・情報の提供②単Pより連合体の

方が効果的な事業の推進

③行政へのはたらきかけを三本柱とし頑張ってお

ります。

私の一年間の食事は、細部については紙面の関係上省略しますが、事業

費の内訳、総計五三七、〇六二円で一年間仕事を

するわけです。会費は年度はじめの総会の時に皆

さんが全額持って来て下さいますので資金繰りは

助かります。県Pへの負担金も六月の県P総会の時納入するのが恒例です。

今年から町村会よりの助成が五割アップの一五万になりこの金額は私の年間最大の行事でありま

す。今年には県教委のP指導者研修会と同時開催

加者二〇〇名(例年は四五〇名)で二日間行い非

常に内容の濃いものでした。二日目も大変出席率

がよくて県の先生も喜んで下さいました。

全日P、東北P研究大会

へも代表を派遣すべく用意してあります。全国大

会は会場が山口県と大変遠いので一名でした。こ

の予算の他に県Pの補助がありますので宿泊交通

費はあったようです。東北大会は参加七名の予定

なのでとても間に合いませんが、不足は参加者負

担です。この様な大きな大会に代表を送るのは一

つには県連Pの割当にこたえるためであり又一つ

には見聞を広め、急激な社会変化に対応し時代に

遅れぬPTAとなるためであります。

小規模校訪問、現在管内に生徒が少なく複式学

級で教育を行っている学校が一〇校あります。これらの学校は先生も少なく、会費も少ない、その上通学距離が長いので種々の御苦労が多いのです。

毎年これらの中から一校えらび、私ども役員一同が激励品を持って訪問し

先方PTAと懇談会を開いているものです。

町村連Pへの助成は基本割、人数割で算出して配分し、それぞれ町村連

Pの活動に役立っています。

もちろん県の研究大会への出席も大切なことです。今年には郡山が会場

で同じ県南地方なので一人でも多く行きたいのです

が、ちょうど石川町の秋祭りとなりましたのが

一寸心配です。

この外私が入力しているのに県P安全互助会

への加入促進があります万一の場合のためと県P

の運営強化のためにみんな加入するように呼び

かけております。昨年は加入率が九〇%を越したので県連会長よりおほめ

の表彰状をいただきました。

以上が私の一年間の姿です。どうかよくごらん下さい。そしてあなた方の姿をお知らせ下さい、楽しい有意義な紙上お見合いをしようではありませんか。

(連会PTA会長・深谷壮夫)

# リウオード 賞揚過剰の教育について

安達地方小中P連会長  
鹿野 秀二

かりに、ある教育講演会とか研修会で、子供の良い躰け方についての問題提起があったとする。結論はいつも次のような言葉でまとめられることが多い。いや、むしろまるめられるといった方が適切かも知れない。すなわち「子供の長所を見つけてほめること。子供の良い行為を見つけたら時機を移さず賞揚してやること。こうすることによって、子供は生活や学習の中に生甲斐を感じ、次の向上発展にまた努力を積み重ねるであろう」ということになる。

ニュアンスが含まれていて、反論発想の緒さえつかめないからである。しかし、私には、そのような甘っちょろけの教育論が、いまだにまかり通っている事実には強い疑念を感じざるを得ない。降る星のように惜しみなく次から次へとリウオードを投げ与えてばかりいて、良い躰けができたと思っ

現に、学校教育に対して、「ほめてばかりいないで、もっと毅然と厳しくしてほしい」と切に願っている親のいかに多いことか。そしてこの要望の拠ってきたる所を、私達は冷静にうけとめる必要があると思う。

厳しさと暖かきの渾然と溶けあつた真心のこもる叱り方の、価値と実践方法を探求することではなかろうか。

岩瀬PTA連合会  
岩瀬地区PTA連合会では、五月に総会を開催し、本年度の事業計画等について、審議し、決定しましたが、その中から主なものをご紹介します。

関根隆男(大森小) 櫻村良和(仁井田中) ○助言者 会田一二(稲田小学校) ②第二分科会「家庭教育の中で遊びの指導をどのようにしたらよいか」 ○問題提起者 阿部スミ子(須三小) 有賀政衛(滑川小) ○助言者 増子銀司(須三中校長) ③第三分科会「家庭学習にマスコミを効果的に利用したり、読書意欲を高めるには、どうしたらよいか」 ○問題提起者 宍戸利克(大里小) 吉田亀雄(鏡石中) ○助言者 佐藤二郎(西一小校長) 分科会の後に全体会を開き、各分科会の報告と福島県教育庁県中教育事務所社会教育主事・吉田啓治殿の全体指導を受けました。

最後に、郡山市立小山田小学校長・水戸金正殿の講演を拝聴し、有意義な研修会でした。尚、研修大会の開会式の席上、学校教育の発展向上およびPTA活動の

振興に尽力下さった方々へ、感謝状、表彰状を贈呈し、その功績をたたえました。 ④球技大会 年度はじめての事業として、八月十九日に地区球技大会を実施いたしました。 種目は、男子ソフトボール、女子家庭バレーボールで、各方の代表四チームで熱戦が繰りひろげられました。 成績は、次のとおりです。 ○ソフトボール 優勝 鏡石二小PTA チーム 準優勝 須三小中PTA チーム ○家庭バレーボール 優勝 須二小PTA チーム 準優勝 鏡石一小PTA チーム Aチーム 尚、球技大会は、大変好評を博し、来年度も是非実施したいと考えています。

福島県青少年健全育成条例 十月一日より実施、趣旨を良く理解、青少年を健やかに育成しましょう

私に、言いたいのは、子供の教育に対してリウオードは、価値がないことではなからぬことである。そして、パニツシユメント(罰)と同じく最も適切なときに、抜きはなつ伝家の宝力でなければならぬということである。 今後の私達の課題は、